

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立沼田東小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

| | | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全体 |
|----|----------------|------|------|------|------|------|------|
| 国語 | 前年度結果 偏差値平均 | / | 49.6 | 47 | 47.9 | 51.3 | 49.2 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 52.8 | 52.7 | 55.1 | 56.8 | 51.9 | 53.8 |
| 算数 | 前年度結果 偏差値平均 | / | 48.5 | 49.7 | 47.5 | 50.8 | 49.5 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 57.5 | 56.2 | 58.2 | 53.2 | 54.4 | 55.9 |
| 理科 | 前年度結果 偏差値平均 | / | / | / | 44.8 | 51.5 | 49 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | / | / | 54 | 56.4 | 53.5 | 54.6 |
| 全体 | 前年度結果 偏差値平均 | / | 49.1 | 48.3 | 46.7 | 51.2 | 49.3 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 55.1 | 54.5 | 55.7 | 55.5 | 53.2 | 54.8 |

②学習環境分析 Q-U 【1回目】

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全体 |
|------|-------|----|----|----|----|----|----|----|
| 一次支援 | 人数(人) | | | | | | | |
| | 割合(%) | | | | | | | |
| 二次支援 | 人数(人) | | | | | | | |
| | 割合(%) | | | | | | | |
| 三次支援 | 人数(人) | | | | | | | |
| | 割合(%) | | | | | | | |
| 学習意欲 | 学年(点) | | | | | | | |
| | 全国(点) | | | | | | | |

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

| 教科 | 国語 | 算数 |
|----------------|-------------|-------------|
| 前年度結果 (対県比) | 68 (101) | 69 (107) |
| 本年度結果 (対県比) | 66 (95) | 63 (98) |

④学習環境分析 Q-U 【2回目】

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全体 |
|------|-------|----|----|----|----|----|----|----|
| 一次支援 | 人数(人) | | | | | | | |
| | 割合(%) | | | | | | | |
| 二次支援 | 人数(人) | | | | | | | |
| | 割合(%) | | | | | | | |
| 三次支援 | 人数(人) | | | | | | | |
| | 割合(%) | | | | | | | |
| 学習意欲 | 学年(点) | | | | | | | |
| | 全国(点) | | | | | | | |

2. 調査から明らかになった課題

| | |
|---|---|
| <p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語では、2年生は、重要な語や人物の行動をとらえること(46.8%)、3年生は、文や文章を正しく書くこと(35.4%)、4年生は、主題や構成を読み取ること(46.9%)、5年生は、考えや感想を持って伝え合うこと(50.8%)、6年生は、情報を選び構成を考えて話すこと(46.3%)に課題があった。</p> <p>●算数では、2年生は、長さ・かさ・広さ(76.0%)、3年生は、長さ・かさ(74.0%)、4年生は、かけ算(66.9%)、5年生は、表と折れ線グラフ(53.4%)、6年生は、整数の性質(47.0%)に課題があった。</p> <p>●理科では、4年生は、乾電池と豆電球(44.1%)、5年生は、天気と気温・雨水と地面(59.5%)、6年生は、物の種類や水の温度と溶ける量(57.6%)に課題があった。</p> | <p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書く。(22.4% 県比-6.6) 原因と結果など情報との関係について理解している。(57.1% 県比-7.8) 漢字を文中で正しく使う。(38.8% 県比-14.5) <p>●算数科の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 正三角形の意味や性質の理解(20.4% 県比-4.7) 底辺と面積の関係をともに、面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。(26.5% 県比-6) 「以上」の意味を理解し、表から必要な数を読み取る(63.3% 県比-12.5) |
| <p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> | <p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> |

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

| 重点目標 (何を、どの程度達成するか) | 達成のための具体的取組 (どのようにして) | スケジュール | 検証の指標・目標 |
|--|--|--|--|
| <p>【主体的で深い学びにつながる授業改善】</p> <p>①全教員が、算数科を中心とした「問い」の設定を意識した授業を実施する。</p> <p>②全教員が、児童同士の「対話」を仕組み授業を実施する。</p> <p>③ICTを効果的に活用する。</p> <p>④全国学力・学習状況調査及び学力調査の結果を分析、児童の課題解決に取り組む。</p> <p>【学力調査40%未満の児童を核に据えた学力向上の取組】</p> <p>⑤全学級で、学力向上の取組を計画的に実施する。</p> | <p>①主に算数科において、単元及び1単位時間の授業の中で、児童が主体的に学ぶ(もつと)考えてみたい。～の場合でも同じようになるのか考えてみたい等)ような「問い」を設定する。</p> <p>②1単位時間の授業において、思考、判断、表現力を育成するため、「対話」を取り入れる。</p> <p>③ICTが効果的であると判断した時には活用する。</p> <p>④学力調査の結果を分析、結果をともに、各教科のどの単元でどのように授業を行うか、学年で計画を立て授業改善に取り組む。</p> <p>ONRT、全国学力学習状況調査の結果から、2学期より、国語、算数における課題について、各学年において単元、時間を決め、授業における取組内容を協議、一覧表にまとめ計画的に実施(2学期からの取組表)～NRT、全国学力の結果を受けて～。</p> <p>⑤水曜日の放課を学力補充の時間(「茶ンスタイム」とし、全教員で学力調査40%未満の児童を核に据え、全児童の基礎学力の定着に取り組む。</p> <p>ONRT、全国学力学習状況調査の結果から、「茶ンスタイム」を活用、国語科の論理力育成に重点を当て、9月、10月に計画的に実施(「茶ンスタイム」計画表)。</p> <p>①月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力学習状況調査の過去問、アンテストを計画的に実施。</p> <p>②3回の新学習の時間(「茶レンジタイム」)において、基礎的な問題や応用問題(アンテスト、NRT類似問題)に取り組ませる。</p> <p>○全国学力学習状況調査の結果から、「茶レンジタイム」を活用、国語、算数(9月、10月は算数)における課題について、読み上げ計算、百マス計算及び全学年の漢字の練習(1月以降)を計画的に実施(2学期 学力定着に向けた取組について)。</p> <p>①月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力学習状況調査の過去問、アンテストを計画的に実施。</p> | <p>①年間を通して、特に授業研究実施時(年1回)と相互授業観察時(月1回)。</p> <p>②年間を通して、特に授業研究実施時(年1回)と相互授業観察時(月1回)。</p> <p>③年間を通して、特に授業研究時(年1回)と8月「効果的な活用について交流」。</p> <p>④6～8月</p> <p>6月 学力調査の結果分析。</p> <p>8月 全国学力・学習状況調査の結果分析。</p> <p>8月28日 学力調査、全国学力・学習状況調査の結果より今後の授業改善に向けて取組の計画立案。</p> <p>⑤年間を通して、月ごと各学年で計画を立て実施。</p> <p>⑥年間を通して、学期ごとに、研究部を中心に、検定問題や応用問題に取り組ませる計画を立て実施。2月末にはNRT類似問題を実施。</p> | <p>①年3回の児童アンケート「課題解決のために、授業の最後まで考えている」「授業中、自分の考えを書いている」80%以上。1学期結果、91.4%。次回の指標93%以上。2学期結果、93.0%。</p> <p>②年3回の児童アンケート「授業中、ペアやグループで自分の考えを話している」「友達と自分の考えを比べて考えている」80%以上。1学期結果、90.7%。次回の指標93%以上。2学期結果、89.7%。</p> <p>③年3回の児童アンケート「クロムブックを授業で使ったり、選択したりすることができる」80%以上。1学期結果、95.4%。次回指標98%。2学期結果、97.4%。</p> <p>教職員アンケート「授業において、必要な時にはICT機器を効果的に活用している」80%以上。1学期結果、100%。2学期結果、100%。</p> <p>①～④各学期の単元未テスト(国語、算数)平均点85点以上。1学期結果、国語85.3点、算数83.8点。次回の指標、国語算数共に85点以上。2学期結果、国語87.0点、算数84.8点。</p> <p>⑤2月末 NRT類似問題 全学年 国語、算数、理科80%以上。</p> |
| <p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>①全学級において、規範意識を高める取組を行う。</p> <p>②児童会、学級活動で児童が主体的に企画実行できる活動を行う。</p> <p>③児童の実態を全教職員で把握するとともに、SSRや相談室など、児童一人一人の学びの場としての居場所を確保する。</p> | <p>①Q-Uの分析による実態把握と全体交流、改善計画の立案と共有</p> <p>①月1回の学年主任会で、「沼田東小5つの柱(履物そろえ、あいさつ、無言掃除、右側歩行、時間を守る)」の児童の進捗状況を確認、効果的な策を交流する。</p> <p>①児童会を中心に「沼田東小5つの柱」に関する月目標を立てさせ、主体的に取り組ませる。</p> <p>②児童会が企画したたてわり班遊びを月1回実施する。</p> <p>③学級で企画したたてわり班遊びを学期1回以上実施する。</p> <p>④募金で気になる児童について交流するとともに、不登校等児童支援委員会等において児童の居場所に関わり共通認識を図る。</p> <p>③学年でQU分析を行い、全体交流を実施。</p> | <p>①6月 12月 2月</p> <p>①月1回</p> <p>②月1回</p> <p>②学期に1回</p> <p>③週2回、月1回</p> | |

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

| |
|---|
| <p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○全教員が、児童同士の「対話」を仕組み授業を実施することができた。</p> <p>○NRT、全国学力学習状況調査においては、結果から課題を分析し、計画表を基に「茶ンスタイム」や「茶レンジタイム」の時間を活用しながら取組を進めることができた。</p> <p>○児童会や学級が企画した活動を実施することができた。委員会でも企画・実施を進めることができた。</p> <p>●「問い」の設定においては不十分であったため、今後も授業改善を行っていく必要がある。</p> |
|---|

5. 次年度学力調査の目標値

| 学力定着分析 NRT 偏差値平均 | | 全国学力・学習状況調査 正答率平均 | | | | | |
|------------------|--------------|-------------------|-----|------|-----|------|------|
| | | 新2年 | 新3年 | 新4年 | 新5年 | 新6年 | 全体 |
| 国語 | 目標値 偏差値平均 | 53 | 53 | 56 | 57 | 52 | 54.2 |
| | 目標値 偏差値平均 | 57 | 57 | 58 | 54 | 55 | 56.2 |
| 算数 | 目標値 偏差値平均 | / | / | 55 | 57 | 54 | 55.3 |
| | 目標値 偏差値平均 | 55 | 55 | 56.3 | 56 | 53.6 | 55.1 |

| 教科 | 国語 | 算数 |
|--------------|-------------|-------------|
| 目標値 (対県比) | 69 (100) | 64 (100) |